

水俣学講義

水俣病の公式確認と 猫実験の頃

高峰 武

（熊本日日新聞社論説顧問）

元水俣保健所長の伊藤蓮雄氏 1968年



1950年から1960年にかけて水俣 湾で使われていた漁具







猫の全滅を伝える熊本日日新聞

(1954年8月1日付)

(日曜新聞)

本

日

日

日

日

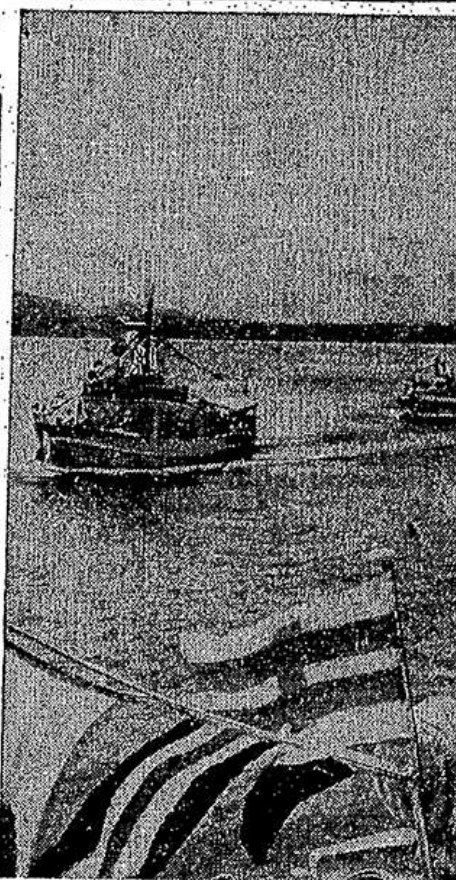
日



三十一日水曜日、熊本日日新聞の社説「猫の全滅」が、全国の新聞に掲載された。この社説は、猫の増加による被害の激増を背景とし、猫の全滅を主張するものである。社説は、猫の増加が、農作物の被害、衛生上の問題、そして人間の健康に与える影響を詳しく説明している。また、猫の全滅を達成するための具体的な方法も提言されている。

猫てんかんで全滅 ねずみの激増に悲鳴

「猫てんかんで全滅」の社説は、全国の新聞に掲載された。この社説は、猫の増加による被害の激増を背景とし、猫の全滅を主張するものである。社説は、猫の増加が、農作物の被害、衛生上の問題、そして人間の健康に与える影響を詳しく説明している。また、猫の全滅を達成するための具体的な方法も提言されている。

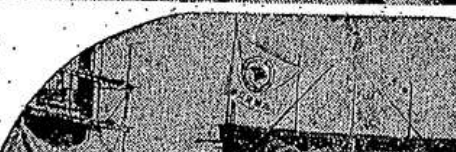


前日、熊本日日新聞の社説「猫の全滅」が、全国の新聞に掲載された。この社説は、猫の増加による被害の激増を背景とし、猫の全滅を主張するものである。社説は、猫の増加が、農作物の被害、衛生上の問題、そして人間の健康に与える影響を詳しく説明している。また、猫の全滅を達成するための具体的な方法も提言されている。

「猫てんかんで全滅」の社説は、全国の新聞に掲載された。この社説は、猫の増加による被害の激増を背景とし、猫の全滅を主張するものである。社説は、猫の増加が、農作物の被害、衛生上の問題、そして人間の健康に与える影響を詳しく説明している。また、猫の全滅を達成するための具体的な方法も提言されている。

エロ本遠慮 八代の母

「エロ本遠慮」の社説は、全国の新聞に掲載された。この社説は、エロ本の増加による被害の激増を背景とし、エロ本の全滅を主張するものである。社説は、エロ本の増加が、青少年の健全な成長に与える影響を詳しく説明している。また、エロ本の全滅を達成するための具体的な方法も提言されている。



恋路島帆走競技大会

(1954年7月)



恋路島キャンプ場

(1954年7月)



水俣湾と埋め立て地と恋路島

(2013年)



田中実子さん

(公式確認第一号患者＝2016年12月)



22歳の頃の田中実子さん

(1976年、父親の義光さんと母親のアサヲさん、
遺影は8歳で亡くなった静子さん)



水俣病の第一号患者の届けがあった 水俣市月浦坪谷(2016年12月)



石牟礼道子さん



原因不明の疾患発生を届けた 野田兼喜医師(1999年4月)



チツソ付属病院の細川一院長



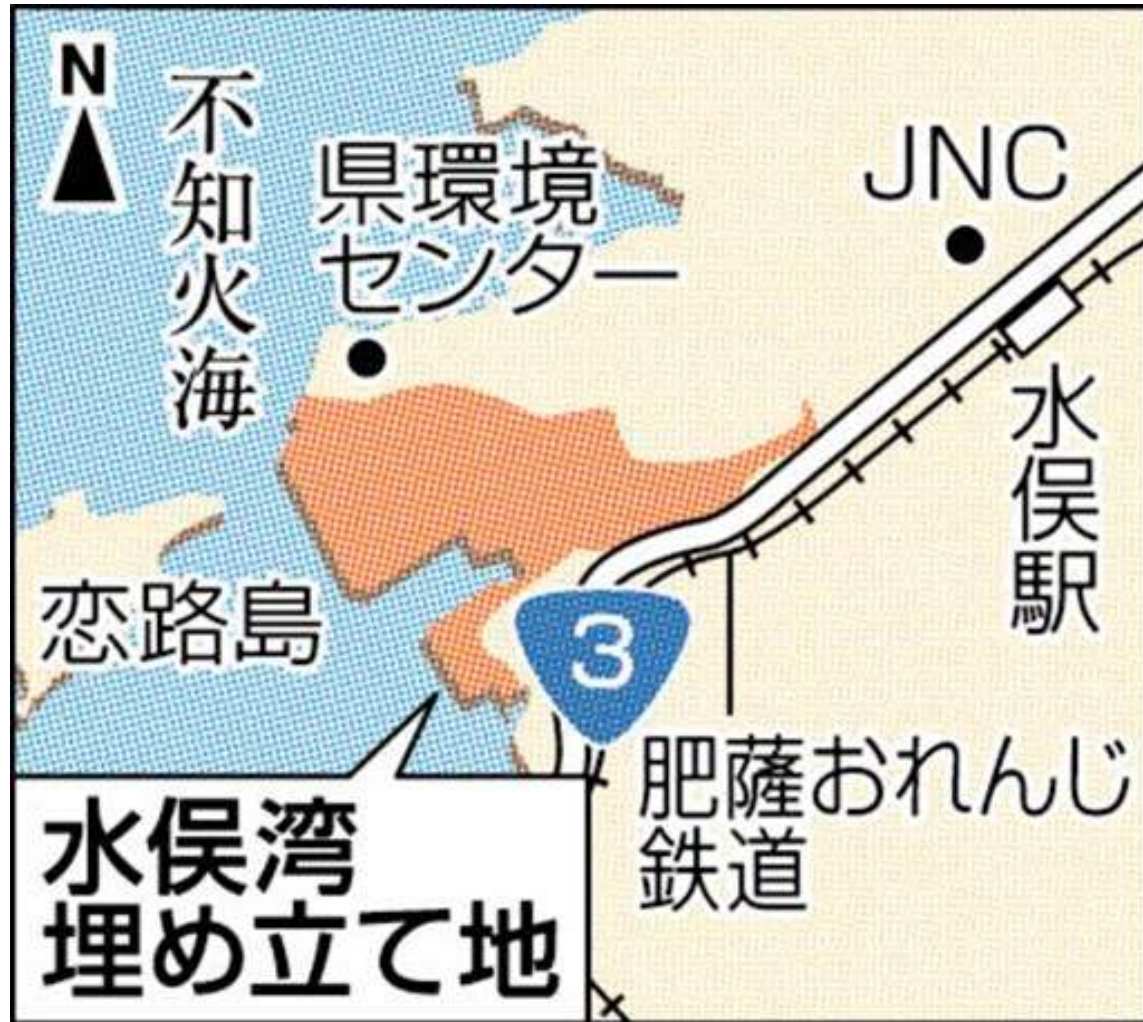
チツソ付属病院前での医師や看護師。
後列左から3人目が細川一氏



細川一氏が水俣病原因解明の実験 に使った猫小屋（水俣病歴史考証館）



水俣湾の埋め立て地

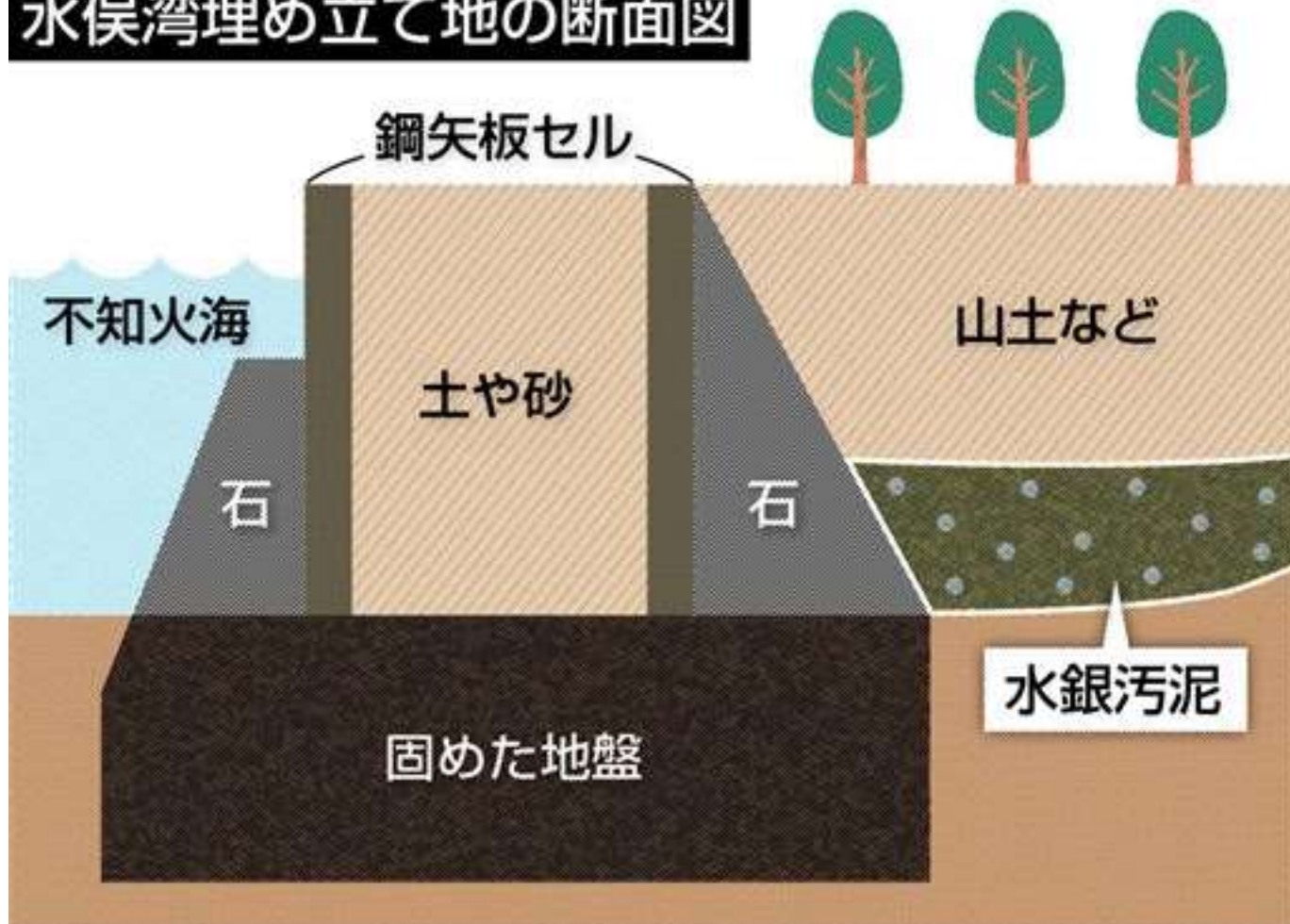


ヘドロが堆積した水俣湾 (1973年3月)



水俣湾埋め立て地の断面図

水俣湾埋め立て地の断面図



※県の資料から作成

水俣湾の鋼矢板の打ち込み作業 (1985年10月)



水俣湾の埋め立て地 2013年撮影



中央奥が水俣湾の埋め立て地

2017年5月



伊藤蓮雄氏の時代と役割

☆水俣病公式確認時の水俣保健所長

1956年5月1日 チッソ付属病院から届け出
早急な調査、早期対応 伝染病の扱いで差別や
恐怖心を生む一長く残った

☆猫実験で水俣湾産の魚介類で水俣病 を発症 1957年 先駆けた実験

水俣湾の魚介類が原因と分かる。

☆当時、熊本県は財政再建団体だった

水俣病61年とは

◇なぜ続いているか

- ・不作為の歴史が問題を生み続けている
- ・被害者が異議を申し立てている

◇無視された “小さな” 訴え

- ・被害者の声
- ・水産庁の指摘 霞が関の論理
- ・多数の側の利益 多数の側の無関心

◇失敗こそが最高の教訓になる

- ・2回も繰り返された。なぜか。ここからくみとることは何か。
本当の反省は身を切り刻むことから始まる

水俣資料館語り部・緒方正実さんの話を聞く 天皇、皇后両陛下(2013年10月27日)



天皇陛下の言葉

本当に、お気持ちを察するに余りあると思っています。真実に生きたことができる社会をみんなで作っていききたいものだと思いためて思いました。本当にさまざまなお思いを込めて、この年まで過ごしていらしたということに深く思いを致します。

今後の日本が、自分が正しくあることができる社会になっていく、そうなればと、みんながその方向に進んでいくことを願っています。

（2013年10月27日、訪問先の熊本県水俣市で。水俣病資料館語り部の会会長の緒方正実さんが、水俣病の歴史や自身が水俣病であることを伏せてきたことに触れたことへの返礼）

天皇陛下の言葉

本当に、お気持ちを察するに余りあると思っています。真実に生きたことができる社会をみんなで作っていききたいものだと思いためて思いました。本当にさまざまなお思いを込めて、この年まで過ごしていらしたということに深く思いを致します。

今後の日本が、自分が正しくあることができる社会になっていく、そうなればと、みんながその方向に進んでいくことを願っています。

（2013年10月27日、訪問先の熊本県水俣市で。水俣病資料館語り部の会会長の緒方正実さんが、水俣病の歴史や自身が水俣病であることを伏せてきたことに触れたことへの返礼）